第１話　ロシア語の系統図

19世紀ヨーロッパにおける言語研究は、歴史言語学、とりわけ比較言語学の分野で著しい発達を遂げた。世界の言語の類縁関係が調査され、言語の系統を特定するための研究が進められた。特にヨーロッパを中心とする地域の諸言語に関しては、文献資料の豊富さもあって、多くの言語の系統が明らかにされ、「インド・ヨーロッパ語族」、通称「印欧語族」という言語のグループ分類が成立したのである。

比較言語学では、主として音韻、基本語い、文法構造の三つの面から複数言語を比較して、その類縁関係の遠近性を明らかにしている。印欧語族は、およそ５千年前に共通の祖語からいくつもの言語グループに枝分かれしたと考えられているが、祖語の存在についてはあくまで仮説に過ぎない。次表は、印欧語族に属する主要な語派および言語である。

印欧語族

├**ゲルマン語派**	英語、ドイツ語、オランダ語
├**ロマンス語派**	フランス語、イタリア語、スペイン語
├**スラブ語派**	ロシア語、ポーランド語、ブルガリア語
├**ケルト語派**	アイルランド語、ウェールズ語
├**バルト語派**	リトアニア語、ラトヴィア語
├**ギリシア語**	
└**インド・イラン語派**	ヒンディー語、ペルシア語

共通の祖語を使用していたであろう古代スラヴ人は、東ヨーロッパ地域、具体的にはカルパチア山脈の北麓、ビスワ川の中流域を中心に、西はエルベ川、東はドニエプル川にわたる地域に居住していたと考えられている。これは現在の地図では、ポーランド南部からウクライナ西部の地域に当たる。スラヴ語派は、紀元後の数世紀の間に徐々に方言的分化が起こって、７～８世紀ごろ西スラヴ語派、南スラヴ語派、東スラヴ語派に明確に３分割される。その後東スラヴ語は、地域ごとに異なった歴史を歩むなかでさらに方言化が進み、14～15世紀ごろまでには今日のロシア語、ウクライナ語、ベロロシア語が形成された。このように、スラヴ語派は分化の過程が比較的新しいので、スラヴ諸語は相互の近親性が大きいという特徴を持つ。現在のスラヴ語派を図示すると、次のようになる。

スラヴ祖語

西スラヴ語派	**南スラヴ語派**	**東スラヴ語**
ポーランド語	ブルガリア語	ロシア語
チェコ語	セルビア語	ウクライナ語
スロヴァキア語	クロアテイア語	ベロロシア語
ソルブ語	スロヴエニア語	
	マケドニア語	

ロシア語はヨーロッパの言語の一つで、ウクライナ語とベロロシア語と最も近い関係にあり、チェコ語、ポーランド語、ブルガリア語などともある程度共通する昔韻と語い、文法構造を持つ。簡単な例文や表現を挙げて、比較すると実感がつかめるかもしれない。それでは例文。

1.

— Кафе, моля? カフェ　モーリャ	コーヒー、いかがですか。
— Да, благодаря. ダ　ブラゴダリャー	ええ、ありがとう。いただきます。
— Със захар? サズ　ザーハル	砂糖は入れますか。
— Не, благодаря. Без захар. ネ　ブラゴダリャー　ベズ　ザーハル	いいえ、結構です。砂糖なしで。
— Ето, заповядайте! エト　ザポヴャーダィテ	さあ、どうぞ。
— Да, благодаря много. ダ　ブラゴダリャー　ムノーゴ	ええ、どうもありがとう。
— Моля. モーリャ	どういたしまして。

2.

— Oto pana klucz. Winda jest na prawo. オト　パナ　クルチ　ヴィンダ　イェスト ナ プラヴォ	これが鍵です。エレベータは右です。
— Dziekuje. A gdzie tu jest restauracja? ジェンクイェン　ア　グジェ　トゥ イェスト　レスタウラツィヤ	ありがとう。レストランはどこ。
— Tam na lewo, prosze pana. タム　ナ　レヴォ　プロシェン　パナ	あちら左手です。
— Czy mozna jeszcze cos zjesc? チ　モジナ　イェシチェ　ツォシ　ズィイェシチ	まだ何か食べられますか。
— Owszem, mozna. オフシェム　モジナ	はいもちろん。食べられます。
— To dobrze. Dobranoc! ト　ドブジェ　ドブラノツ	それはよかった。おやすみなさい。
— Dobranoc panu. ドブラノツ　パヌ	おやすみなさいませ。

3.

— Где здесь почта?	この辺りはどこに郵便局がありますか。
— Почта ...? Не знаю.	郵便局ですか。知りません。
— Я знаю. Вот она.	私は知っています。ほらそこです。
— Спасибо.	ありがとう。
— Пожалуйста.	どういたしまして。

スラブ民族の発生があって以来、５～６世紀までにはかなりのところまで自分たちの版土を拡大していって、スラブ人の間には南、西、東という３つのグループがすでにできあがっていたらしい。スラブ諸民族の分化にともなって、共通スラブ語も、それぞれ独立した言語へと枝分かれしたのである。なお、ここでいう共通スラブ語は、架空の言語であって、実在したかどうかは確かめられていない。

東スラブ（古代ロシア）語とは、スラブ人の祖先から枝分かれした東部グループの言語のことである。これは７～９世紀にかけて成立したらしい。９～12世紀初頭に東スラブ（古代ロシア）国家であるキエフ・ルーシが歴史に現われる。キエフ・ルーシの住民は、互いに近い関係にある東スラブ（古代ロシア）語の諸方言を話していた。

12～13世紀にキエフ・ルーシは、別々の領土に分裂してしまう。東スラブ（古代ロシア）語も、ロシア語、ウクライナ語、ベロロシア語の３つの言語に分かれることとなる。これらの言語はおおむね、14世紀には枝分かれを済ませている。

キエフ・ルーシの北東周辺部に、14世紀にモスクワ・ルーシが建国され、その住民は、ことばとしてようやく形が整いつつあったロシア語を話していた。したがってモスクワ公国以降のロシア語は、３つの東スラブ系民族のうち大ロシア人だけが話す言語ということになる。

これまでをまとめてみよう。いわゆる生粋のロシア語とは、一つに共通スラブ語、二つに東スラブ（古代ロシア）語、そして三つ目にロシア語固有、という３層建ての単語から成っているといえる。一例を挙げてみよう。

共通スラブ語時代（紀元前？）

	ロシア語	ウクライナ語	ポーランド語
頭	голова	голова	glowa
水	вода	вода	woda
民衆	народ	народ	narod
魚	рыба	риба	ryba
鳥	птица	птах	ptak
若い	молодой	молодий	mlody
白い	белый	білий	bialy

東スラブ語時代（７～９世紀）

	ロシア語	ウクライナ語	ポーランド語
平和	мир	мир	pokoj
話す	говорить	говорити	gadac
住む	жить	жити	mieszkac

ロシア語固有（14世紀以降、現用語いの大部分を占めている）

あずまや	беседка	< беседа
道に迷う	заблудиться	

参考語群

朝食	завтрак	сніданок	sniadanie
町	город	місто	miasto
市場	рынок	ринок	rynek
新聞	газета	газета	gazeta

ことばは、人間の社会活動のうちもっとも古いものに数えられる。人間は長い間ことばを使ってきたが、文字を考案したのはほんの数千年前にすぎない。単語の大部分は、太古の昔に起源を発しているのであろうが、それらの道筋をたどるには、入念で、たくさんの知識が求められる。こうした研究の結果、ことばの起源だとか、語形や意味の発達具合、ほかの言語との結びつきなどが明らかにされている。さしずめ比較言語学あたりにスポットライトがあたりそうだ。概説書として手元にあるものを挙げてみよう。

1. 高津春繁著『比較言語学入門』岩波文庫、1992年
2. 風間喜与三著『比較言語学史』岩波新書
3. 小泉保著『教養のための言語学コース』大修館書店、1989年

誰もが特殊な言語研究書を読むようには訓練されているとは限らないにしても、簡潔で、平易なことば遣いで、そしてこれが大切なのだが、おもしろおかしく、ことばの歴史を解説してくれる普及本があれば、なおよい。一例を挙げてみよう。

1. В мире слов, Н.М.Шанский, Москва, "Просвещение", 1985
2. Слово о словах, Л.В.Успенский, Ленинград,"Детская литература", 1982
3. По дорогам и тропинкам языка, Л.В.Успенский, Москва, "Детская литература", 1980
4. Русское слово, Л.А.Введенская и др., Москва, "Просвещение", 1987
5. К истокам слова (рассказы о науке этимологии), Москва, "Просвещение", 1986
6. Беседы о русском слове, З.Н.Дюстрова и др., Москва, "Знание", 1978

こうした本には単語の生い立ちの２つの側面のうちの一方、すなわち太古の昔から現代に至るまでの道筋が、時系列にそって、歴史的な流れに沿って書かれている。

もっとも古い発生とされる単語は、вода, белый, гора, хорошо などという日常語いである。ところがこれらの単語は、経歴を調べるのがもっともやっかいな代物でもあるのだ。源流をたどるには証拠のほとんど残っていない時代にまで探索の手を伸ばさなければならない。

さらに同じ印欧語族の英語と比較対照してみると、さまざまな点で類似性を見出すことができる。例えば、次のような基礎語いを現代のロシア語と英語で比べてみよう。

息子	сын	son
娘	дочь	daughter
兄弟	брат	brother

姉妹	сестра	sister
水	вода	water
ミルク	молоко	milk
2	два	two
3	три	three

これらの単語は、人間の生活に必要な根源的な語で、どの民族でも古代から使われてきたもので、外来語ではない。類縁関係の遠い両語のことだから発音上の差異はあるものの、基本的な音韻構造は相似しているのである。同様に文法の面でも、ロシア語と英語は、共通するものがある。一例を挙げれば、人称代名詞・関係代名詞の存在、動詞に時制がある、性質形容詞に比較級がある等、相似する文法カテゴリーを持つことである。